

東京芸術祭特別公演 ファンタスティック・サイト
大駱駝艦・天賦典式『Crazy Camel Garden』 チケット発売
先行発売:4月11日(日)、一般発売4月18日(日)10:00~
フィルム & パフォーマンス「Undercurrents」作品映像公開中

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京は東京芸術祭実行委員会と共催し、都内各地を舞台に舞踏のプログラムを展開する東京芸術祭特別公演 ファンタスティック・サイトを開催しています。



本プログラムでは、東京芸術祭総合ディレクター宮城聰のディレクションによる大駱駝艦・天賦典式『Crazy Camel Garden(クレイジー・キャメル・ガーデン)』の上演に加えて、東京芸術祭プランニングチームのメンバーであり、フェスティバル/トーキョーのディレクター、共同ディレクターを務める長島確と河合千佳のディレクションによるフィルム & パフォーマンス「Undercurrents(アンダーカレント)」を実施します。

このたび、5月21日、22日、23日に開催予定の大駱駝艦・天賦典式『Crazy Camel Garden(クレイジー・キャメル・ガーデン)』のチケット先行発売を4月11日(日)、一般発売を4月18日(日)10:00から行います。

また、「Undercurrents(アンダーカレント)」の作品映像を3月25日から公開していますので、ぜひご覧ください。

【大駱駝艦・天賦典式『Crazy Camel Garden(クレイジー・キャメル・ガーデン)』】

■日時: 2021年5月21日(金)・22日(土)・23日(日) 開場:18:00 / 開演:19:00

■会場: 東京都庭園美術館・芝庭(雨天決行) 〒108-0071 港区白金台5-21-9

■振付・美術・演出: 磨 赤兒(まろ・あかじ) 、出演: 磨 赤兒、村松卓矢、田村一行、高桑晶子、銚久奈緒美ほか

▶ファンタスティック・サイト 公式ウェブサイト: <https://tokyo-festival.jp/2020/fantastic-site/>

■チケット発売: プレイガイド先行2021年4月11日(日)、一般発売2021年4月18日(日)10:00~

■料金【全席自由(整理番号付)・税込】: 一般:5,000円(前売・当日共通)、障害者割引:4,500円、U25:3,000円

■チケットぴあ 0570-02-9999(24時間・音声自動応答)【Pコード:504-871】 <https://t.pia.jp/>

■イープラス <https://eplus.jp/rakudakan/> (PC・スマートフォン)

■Confetti(カンフェティ) 0120-240-540(平日10:00~18:00) http://confetti-web.com/crazy_camel_garden_2021

英語サイト http://confetti-web.com/crazy_camel_garden_2021_en

【フィルム & パフォーマンス「Undercurrents」】

フィルム&パフォーマンス「Undercurrents」では、下記の作品映像を2021年3月25日から公開しています。また、これらの作品に合わせ、アーティストインタビューをファンタスティック・サイト公式ウェブサイトでご覧いただけます。

■配信期間:2021年3月25日～2022年3月末(予定)

・岩渕貞太『A Water Vein』【上映時間:22分】

・黒田育世『病める舞姫』【上映時間:22分】

・大橋可也 & ダンサーズ『Tune To A Dead Channel: Departure / Arrival』【上映時間:Arrival(86分)Departure(26分)】

【東京芸術祭特別公演 ファンタスティック・サイト 開催概要】

名称: 東京芸術祭特別公演 ファンタスティック・サイト

(英語名 Fantastic Site—Special Performances at Tokyo Festival)

会期: 2021(令和3)年1月から5月

主催: 公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

共催: 東京芸術祭実行委員会 [豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、フェスティバル/トーキョー実行委員会、公益財団法人東京都歴史文化財団(東京芸術劇場・アーツカウンシル東京)]

【ファンタスティック・サイトとは】

東京芸術祭特別公演「ファンタスティック・サイト」は、前近代から近現代へと向かい、不安と期待に満ちた時代に生きる日本人の眼差しを、土地と身体記憶によって呼び覚ます機会です。

江戸から明治へと歩き出した日本はいくつもの欧米文化が流れ込み、ときには動揺しながらも、その文化をしなやかに受け入れ、新たな社会を形成してきました。特に東京はお台場など、その道のりの境目が垣間見られる日本でも珍しい都市でもあります。

「ファンタスティック・サイト」は、そんな時代の狭間が存在し続ける土地を舞台に、日本発の芸術表現である舞踏やそのエッセンスを受け継ぐアーティストたちのパフォーマンスによって、当時そのままの風景や感情をありありと浮かび上がらせます。

その瞬間、あなたはかつて東京に生きた人々の眼差しを体験し、過去から現在、そして未来へと脈々と続く東京を再発見する。東京をもっと面白がれる、そして、もっと愛せる時間となることでしょう。

【東京芸術祭とは】

「Tokyo Tokyo FESTIVAL」の一環として、東京の多彩で奥深い芸術文化を通して世界とつながることを目指し、毎年秋に東京・池袋エリアを中心に開催している都市型総合芸術祭です。東京の芸術文化の魅力を分かりやすく見せると同時に東京における芸術文化の創造力を高めることを目指しています。中長期的には社会課題の解決や人づくり、都市づくり、そしてグローバル化への対応を視野にいれて取り組んでいます。

主催: 東京芸術祭実行委員会 [豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、フェスティバル/トーキョー実行委員会、公益財団法人東京都歴史文化財団(東京芸術劇場・アーツカウンシル東京)]

※本プログラムの内容は、予告なく変更になる場合がございます。

◇本リリースに関するお問い合わせ◇
東京芸術祭実行委員会事務局
TEL050-1746-0996(平日 10:00-18:00)

① 宮城聰(東京芸術祭総合ディレクター)ディレクション企画

大駱駝艦・天賦典式「Crazy Camel Garden」

振付・美術・演出: 磨 赤兒(まる・あかじ) / 出演: 磨 赤兒、村松卓矢、田村一行、高桑晶子、鉾久奈緒美ほか

テレビや映画でも活躍する日本を代表する舞踏家、磨赤兒が主宰する舞踏カンパニー「大駱駝艦」。

天賦典式”(てんぷてんしき:この世に生まれ入ったことこそ大いなる才能とする)と名付けたその様式により、忘れ去られた「身振り・手振り」を採集・構築することから、数々の作品を創作し、ヨーロッパやアメリカなど、海外でも高い評価を得ています。今回は大駱駝艦のレパートリーの一つである「Crazy Camel」をファンタスティック・サイトのために特別バージョンとしてリクリエーションし、東京都庭園美術館・芝庭にて今回限りの舞台を披露します。

■日時:2021年5月21日(金)・22日(土)・23日(日) 開場:18:00 / 開演:19:00

■会場:東京都庭園美術館・芝庭(雨天決行) 〒108-0071 港区白金台 5-21-9

JR 山手線「目黒駅」東口 / 東急目黒線「目黒駅」正面口より徒歩7分 都営三田線・東京メトロ南北線「白金台駅」1番出口より徒歩6分

※白金台駅のエレベーターは2番出口

■チケット発売:プレイガイド先行 2021年4月11日(日)、一般発売 2021年4月18日(日)10:00～

■料金【全席自由(整理番号付)・税込】:一般:5,000円(前売・当日共通)、障害者割引:4,500円(*1)、U25:3,000円(*2)

※車いすで観劇をご希望の方は東京芸術祭実行委員会事務局まで事前にお問合せ下さい。

※未就学児童入場不可

*1:障害者割引はチケットぴあ前売のみ取扱い。枚数限定。介助者1名無料。公演当日、受付にて障害者手帳をご提示下さい。

*2:U25 チケットはチケットぴあ前売のみ取扱い。枚数限定。公演当日、受付にて身分証明書を提示下さい。

■チケットぴあ 0570-02-9999(24時間・音声自動応答)【Pコード:504-871】 <https://t.pia.jp/>

■イープラス <https://eplus.jp/rakudakan/> (PC・スマートフォン)

■Confetti (カンフェティ) 0120-240-540(平日 10:00～18:00) http://confetti-web.com/crazy_camel_garden_2021

英語サイト http://confetti-web.com/crazy_camel_garden_2021_en

※上演にあたり、新型コロナウイルス感染予防対策を行います。東京芸術祭特別公演ファンタスティック・サイトウェブサイトに掲載の感染拡大予防のための取り組みをご了承の上ご購入・ご来場ください。

大駱駝艦(だいらくだかん)・天賦典式

磨赤兒主宰。1972年創設。

その様式を天賦典式(てんぷてんしき:この世に生まれ入ったことこそ大いなる才能とする)と名付け、忘れ去られた「身振り・手振り」を採集・構築し、数多くの作品を生み出している。1982年、舞踏カンパニーとしては初のフランス・アメリカ公演を行い、鮮烈なインパクトを与えて広く「Butoh」を浸透させた。また、磨赤兒の考え方である「一人一派」を実践し、山海塾や室伏鴻など多彩な舞踏グループ及び舞踏手を多数輩出している。現在、東京・吉祥寺にあるスタジオ「壺中天」(こちゅうてん)を拠点とし、様々なユニットを内蔵、大駱駝艦・天賦典式公演並びに壺中天での公演を精力的に行っている。舞踏ワークショップも随時実施、毎夏恒例となった長野県白馬村での舞踏体験合宿には、国内外から多数の参加者が集まる。1974年、87年、96年、99年、07年、12年舞踊批評家協会賞受賞。

共催:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都庭園美術館

制作:大駱駝艦 / キャメルアーツ株式会社

宣伝協力:株式会社ポスターハリス・カンパニー

協力:cozfish / 株式会社アイネット

アーツカウンシル東京広域舞台公演事業

② 長島確・河合千佳(フェスティバル/トーキョーディレクター)ディレクション企画

フィルム & パフォーマンス「Undercurrents」

出演: 岩淵貞太、黒田育世、大橋可也 & ダンサーズ

配信期間: 2021年3月25日～2022年3月末(予定)

ファンタスティック・サイト「Undercurrents」ウェブサイトで配信:

<https://tokyo-festival.jp/2020/fantastic-site/undercurrents/>

《Undercurrents とは》

Undercurrents とは、表面には現れていない流れを意味する。

Undercurrents とは、表面からは見えない流れ。東京が江戸の水路のうえに成り立つように、誕生から60年経った舞踏のスピリットも、表向きの形を変えながら脈々と受け継がれている。それぞれの方法で身体と向き合い続ける岩淵貞太、黒田育世、大橋可也 & ダンサーズ。2020年のパンデミックをまたぎながら、日々移りゆく東京の〈サイト(場所)〉と、踊り手の〈身体〉を接続させる。

ディレクション: 長島確、河合千佳(フェスティバル/トーキョーディレクター)

映像ディレクション: 宮澤響(Alloposidae LLC)

フィルム&WEB 配信

岩淵貞太『A Water Vein』

製作年: 2021年 / 上映時間: 22分

東京という都市は、かつての「水の都」だ。

江戸時代に人工開削された川(水路)が、現在の東京における区画の原型をなしている。

だがその多くは、都市開発や災害・戦災によって徐々に姿を変え、今は都市の裏側に隠れている。



記録写真: 宮澤響(Alloposidae LLC)

東京・東日本橋の〈かつて〉の川の跡、〈いま〉の川の風景。街のすきまを徘徊する黒い姿

——振付家・ダンサーの岩淵貞太が、つねに変容し続ける都市のなか、コンクリートの下の“見えない川、を辿った。

舞踏や武術をベースに日本人の身体と感性を生かし、独自の表現方法を探求する岩淵。

自身の身体を媒介に、街と人、表面と底流、現在と過去、見えない関係を繋いでいく。

岩淵貞太(いわぶち・ていた)

振付家／ダンサー。玉川大学で演劇を専攻、並行して、日本舞踊と舞踏も学ぶ。2007年より2015年まで、故・室伏鴻の舞踏公演に出演、今日に及ぶ深い影響を受ける。2005年より、「身体の構造」「空間や音楽と身体の相互作用」に着目した作品を創りはじめる。2010年から、大谷能生や蓮沼執太などの音楽家と共に、身体と音楽の関係性をめぐる共同作業を公演。2012年、横浜ダンスコレクション EX2012にて、『Hetero』(共同振付: 関かおり)が在日フランス大使館賞受賞。自身のメソッドとして、舞踏や武術をベースに日本人の身体と感性を生かし、生物学・脳科学等からインスパイアされた表現方法論「網状身体」開発。玉川大学非常勤講師。急な坂スタジオレジデントアーティスト。2019年度セゾン文化財団シニアフェロー。

黒田育世『病める舞姫』

製作年：2021年／上映時間：22分

『舞姫』とは、暗黒舞踏の創始者・土方巽が著した文書である。

そのシュルレアスティックかつ魅惑的な言語世界は、土方の自叙伝とも、「舞踏の言語」とも呼ばれる。1983年の出版以来、数多くの踊り手によって舞台化され、研究者・哲学者をも魅了してきた。

2018年、ダンスカンパニーBATIK 主宰の黒田育世が、土方の『病める舞姫』をもとにソロ作品を発表。クラシックバレエの基礎と、さまざまな踊り手との共創の経験をもつ黒田の自伝的要素も加わり、土方の言葉が新たな舞台作品として展開された。

本映像では、黒田育世の『病める舞姫』を原作に据え、その一部を、東京・目黒の日本家屋にインストールしている。

その家は築後150年が経過し、使い継がれた役目をまもなく終える。

土方のテキストの断片を連想させる空間で、黒田の身体を追った。

黒田育世(くろだ・いくよ)

6歳よりクラシックバレエを始め、97年渡英、コンテンポラリーダンスを学ぶ。02年BATIKを設立。バレエテクニックを基礎に、身体を極限まで追いつめる過激でダイナミックな振付は、踊りが持つ本来の衝動と結びつき、ジャンルを超えて支持されている。03年トヨタコレオグラフィアワード「次代を担う振付家賞」「オーディエンス賞」、04年「朝日舞台芸術賞」、06年「舞踏批評家協会賞」、10年「第4回日本ダンスフォーラム賞」、15年「第9回日本ダンスフォーラム賞」を受賞。BATIKでの活動に加え、金森稜率いるNoism05、飴屋法水、古川日出男、笠井勲、野田秀樹、串田和美など様々なアーティストとのクリエイションも多い。

大橋可也 & ダンサーズ『Tune To A Dead Channel: Departure / Arrival』

製作年：2021年／上映時間：Arrival(86分)Departure(26分)

舞踏の方法論をもとに現代社会の身体の在り方を問う大橋可也&ダンサーズ。

東京西部・八王子で撮影された本作は、彼らが街を歩き、記憶を共有しながら振付をつくるという独自のプロセスを経て創作された。

都内有数の工場地帯・北八王子の鉄製品工場。現役で稼働する機械と場を共有し、ライブ配信をおこなった「Arrival」。宿場町としても栄えた八王子の街なか。河川敷・飲み屋街・かつての遊郭跡など、複数の場で撮り下ろした映像作品「Departure」。

大橋可也みずからもカメラを持ち、〈記憶〉を踊る身体をとらえた。

サイバーパンクSFの嚆矢『ニューロマンサー』の冒頭に想を得て、

〈いま〉の八王子の風景でありながら、往還可能な Departure⇄Arrival という2つの世界が立ち上がる。

※「Arrival」に関しては、2021年1月にライブ配信をおこなった上演の映像を再編集したものを配信いたします。



記録写真：宮澤響 (Alloposidae LLC)



写真：前澤秀登

大橋可也&ダンサーズ(（おおはし・かくや あんど だんさーず)

1999年、結成。テキストを用いた舞踏の振付法を基に現代社会における身体の在り方を問うダンスカンパニー。代表作に、秋葉原連続殺傷事件に想を得た『帝国、エアリアル』(2008年・新国立劇場)、飛浩隆の長編小説を題材にした『グラン・ヴァカンス』(2013年・シアターラム)、市川春子のコミック作品を題材にした『Lustrous』(2020年・横浜赤レンガ倉庫)がある。2013年より江東区を舞台にリサーチに基づくダンス作品を制作するプロジェクト「ザ・ワールド」を開始、2022年、『ザ・ワールド 2022』を発表予定。

制作：NPO 法人アートネットワーク・ジャパン

協力：フェスティバル/トーキョー実行委員会、季節の佃煮 柳ばし 小松屋、八王子市、
公益財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団、株式会社カフス、公益財団法人セゾン文化財団、
株式会社 森崎工業、MODESTE、八王子食糧株式会社、目黒ハウス